

第4期科学技術基本計画(平成23年8月閣議決定)

(国際水準の研究環境及び基盤の整備)

- ・研究開発活動を効果的、効率的に推進していくためには、研究成果や**研究料材料**等の知的資産を体系化し、幅広く研究者の利用に供することができるよう、**知的基盤を整備**していく必要がある。
- ・国は、利用者ニーズを踏まえた成果の蓄積、**データベース**の整理や統合、その利用・活用、既に整備された機器及び整備の有効利用活用を促進し、**知的基盤の充実及び高度化**を図る。

これを踏まえ、ライフイノベーション実現に向けた研究基盤を構築

精神・神経疾患の克服のための研究基盤

- ・うつ病、認知症等の**精神・神経疾患の克服**に向けた脳科学研究等を行うための**基盤**として、**霊長類等の疾患モデル動物を開発**するとともに、その供給体制を確立。

バイオリソース・バイオバンク整備

- ・生命科学研究の推進、**ライフイノベーションの実現の観点から**、国が**戦略的に整備**することが**重要なバイオリソース・バイオバンク**について、体系的な収集・保存・提供を効率的かつ効果的に行い、実験の再現性を確保した**世界最高水準のバイオリソース**や**個別化医療実現に不可欠なバイオバンク**を整備し、試料を幅広く提供。

ライフイノベーションを実現するための統合データベースの構築

- ・**ライフサイエンス分野の統合データベース**を構築することにより、**研究者コミュニティに共有・活用**されることを通じ、基礎研究や産業応用研究を含むライフサイエンス研究全体の活性化や医薬品、医療機器、再生医療等の新たな医療技術開発等の**ライフイノベーションに貢献**。

ライフイノベーションを実現するための革新的な計測分析技術・機器の開発

- ・がん、生活習慣病の合併症等の革新的な診断・治療法をはじめ**アクションプラン**が掲げる**政策課題の達成**に向けた**計測分析技術・機器開発**を実施。

IV ライフイノベーション（抜粋）

(2 - 3) 重点的取組「うつ病、認知症等の精神・神経疾患の診断マーカーの探索及び画像診断法の開発とそれに基づいた発症予防、早期診断、進行遅延(新規)」

取組の内容、期待される社会的・経済的效果

科学・技術の観点から10年後の出口を見据え、早期発見や新規治療法(医薬品、治療技術)の開発、脳科学等の基礎研究、病状のコントロールなど、現在進められている研究開発の一層の加速が必須である。併せて、うつ病・認知症等の精神・神経疾患を克服するため、これらの病態を再現するモデル動物等の基盤整備も必要である。

本取組の推進により、早期診断、治療による患者のQOLの向上、発症の予防と軽減、罹患期間の短縮による社会活動、家庭生活での介護負担等による損失の低減、自殺の予防等が期待される。

取組の目標

精神疾患に起因した自殺の減少、認知症の患者数の抑制

【参考値：1年間の自殺者総数31,690人(平成22年警察庁)】